

しなやか女性医学研究者支援みやこモデル

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：京都府立医科大学（総括責任者：吉川 敏一）

プロジェクトの概要

専任職員を配置した「男女共同参画推進センター」を学内に設置し、①全学的女性研究者支援体制として、研究、医療業務のローテーション環境を構築し、時短常勤勤務など柔軟な勤務体制の採用できる研究業務を組織的に整備する。女性医学研究者採用枠を企画する。②病児保育を軸とする子育て支援として、医系単科大学としての強みと機動性を生かした理想的な病児保育室の設置・運営をめざす。将来的には地域を中心に広く病児保育室を開放し地域還流型モデルとしての特性化を図る。産休・育休および子育て中の支援として、研究支援補助者の配置および在宅研究支援を行う。地域連携モデルとして近隣大学からの女性研究者受入れ体制の整備とともに、連携大学の理・工・農・薬の人材の育成に貢献する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
B	b	a	b	b	a

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

質の高い病児保育制度の創設、短時間勤務の研究員制度（フューチャー・ステップ研究員制度）の構築、研究支援員の配置等により、女性医学研究者の支援体制を整備したことは評価できる。しかしながら、女性テニユア教員の増加は僅かであり、上位職階への登用にも繋がっていない。今後は環境整備に加え、上位職階を含めたテニユア教員としての女性研究者の定着を図ることが必要である。

- ・ **目標達成度**：女性医学研究者比率の目標は達成できていない。しかしながら、若手女性専攻医は増加し女性医学研究者の裾野は拡大しており、今後の積極的な女性医学研究者採用へ向けた取組を期待する。
- ・ **取組**：病児保育室の開室、短時間勤務の研究員制度の導入、近隣大学との連携による理系の学生を研究支援員とする研究支援員制度の構築など、女性医学研究者のニーズを踏まえた環境整備を着実に実施したことが評価できる。

- **システム改革**：短時間勤務の研究員制度の創設等により、人事面でのシステム改革は推進された。また、育児と研究の両立を支える病児保育施設の整備においては、近隣大学や自治体へ高い波及効果を及ぼしており評価できる。しかしながら、女性テニユア教員の増加や上位職階への女性教員の登用は進んでおらず、システム改革が十分とは言い難い。
- **実施体制**：学長補佐である男女共同参画推進センター長を中心に、学長や附属病院長の協力の下、病児保育室の開設、短時間勤務の研究員制度の創設を行った。しかしながら、女性医学研究者比率の目標設定においては全学のコンセンサスが十分得られていたとは言い難いため、今後は、機関全体として十分なコンセンサスを得た上で、女性医学研究者の育成に取り組むことが必要である。
- **実施機関終了後における取組の継続性・発展性**：病児保育支援、短時間勤務の研究員制度は、十分な予算を確保し継続しており評価できる。今後は、若手女性専攻医から女性テニユア教員へのステップアップを支援する取組の策定を期待する。